

**i【若者たちよ 李登輝・台湾前総統】(1)**

「第5回日台文化交流青少年スカラシップ」講演から

FujiSankei Business i. 2008/4/15

■指導者は現場を見ろ、日本人の一人として奮闘せよ

日本の若者に台湾を通じて世界を見つめ直してもらう「日台文化交流 青少年スカラシップ」(フジサンケイ ビジネスアイ、産経新聞社主催、台湾行政院新聞局共催)は今年、第5回を迎えた。10～20代の若者から作文など4部門で1101



点の応募があり、このうち優秀賞の受賞者など17人が6日間の研修

3月28日、台北県淡水の台湾総合研究院を訪ねた17人の「第5回日台文化交流 青少年スカラシップ」の参加者に2時間にわたって語りかけた李登輝氏(右)(田中靖人撮影)

旅行を贈られ、台湾を先月訪れた。

一行が訪問した李登輝前総統は、日本や台湾の将来、中国との関係などについて幅広く、流暢(りゅうちょう)な日本語で若者たちに語って聞かせた。

(河崎真澄)



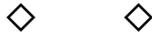
台湾の李登輝です。みなさんは(今回の研修旅行で1泊の)台湾家庭でのホームステイを経験したと聞いた。ホームステイが一番いい。自分と関係のない家に住み、その家の人たちに私とはこういう人間だと生活を通して話したり、場所によっては、今でもトイレや風呂もないような台湾の家庭を知ることができる。

昨日(3月27日)、実は今回(3月22日)の選挙で総統に当選した(野党国民党の)馬英九氏が訪ねてきた。私が馬氏に敬服しているのは、彼が選挙前に(台湾の中部や南部で)99日間のホームステイをしたことだ。彼は(香港出身で)台湾生まれではないが台湾の総統になりたい。ならば台湾人の家に住み込んで「私はこういう人物だ」と了解してもらう必要がある。

この考え方は間違えてはいない。まだまだ貧しい家庭も多く、苦しんでいることを知らねばならない。

最近、「最高指導者の条件」(PHP研究所)という本を私は日本で出版したが、その中で「現場を見なさい」と書いた。馬氏にも話したが、自分とは異なる環境で、人々はどう生活しているのか見なければならぬ。自分の目で見ることで、台湾と日本を将来、強く結ぶにどうすべきか考えるために、欠かせない。

指導者には何が求められるか。組織を作り上げるには、危機に対応する現場主義(が必要)。現場が分からないと。東京で法律つくって、これで正義をやってるといのは間違いだ。民主政治では国民の細かい事情を知らねばならない。



日本は戦後六十数年、非常に進歩した。私の最近の3回の訪日の感想だ。(終戦を迎えた)昭和20(1945)年8月15日に私は名古屋城にいた。(旧日本軍の)見習い士官だった。あれだけ爆撃を受け焦土と化した日本を見た。そこから立ち上がり、世界第2位の経済大国を作り上げた。

民主的な平和な国として世界各国の尊敬を受けることができた。その間における人々の努力と指導者に敬意を表したい。同時に日本文化の優れた伝統が、進歩した社会の中で失われていなかった。私は田舎を回ってきた。岡山、倉敷、そして名古屋、金沢、石川、去年は仙台から山形、秋田へと、奥の細道も歩いた。

みなさんは気づかないだろうが、外国から来るとこんな田舎まで、ゴミひとつ落ちていない(ことは驚きだ)。長い間、伝統的に培われた日本人の考え方であり、国を愛すると同時に村を愛する、自然を愛するという精神に結びついた。

旅館も、新幹線も、仕事に従事する日本人の真面目さ、細やかさをはっきりと感ずることができる。社会秩序はきちんと保たれている。精神的に高い日本文化を日本人はもっている。日本の精神は「武士道」に起源があると私は感じる。



だが、いまの日本に何かが欠けている。これを取り戻す必要がある。さもなくば国際的に日本は強い国になれない。まず第一に私がいう「私は誰だ?」という問題。私は人間だが、人間の生命には限りがある。

みなさんは倉田百三の戯曲「出家とその弟子」を読みましたか。そこに出てくる考え方の基本は、死を迎える前に、生きてい間に何をすべきかという問題がある。生きてい間に自分の精神を高め、自分以外の公共のために努力しなければいけない。これが公(おおやけ)の精神だ。自分さえよければという考え方が若い人に広がっているが、日本人の一人として奮闘すべきだ。

私は台湾のために奮闘している。私は「私(わたくし)」ではない私。公のために奮闘する私だ。日本の指導者にその精神が欠けていないか。



**【プロフィール】李登輝**

リ・とうき 旧制台北高等学校から京都帝国大農学部に学び、戦後、台湾大卒。米コーネル大で農業経済学博士号。台湾大教授時代に蔣経国元総統の求めに応じて政界入り。台北市長や台湾省長などを経て1984年に副総統。88年に蔣氏死去に伴い総統昇格。自ら導入した総統直接選で当選し2000年まで総統職にあった。一党支配時代の国民党の政治体制や社会構造を内側から変えた「台湾民主化の父」。85歳。台北生まれ。蔣

---

フジサンケイビジネスアイの購読のお申し込みはフリーダイヤル0120-46-3150

---

Copyright(C)2008,FujiSankei Business i.

FujiSankei Business i on the webに掲載されている記事・写真の無断転載を禁じます。  
すべての著作権はフジサンケイビジネスアイまたは情報提供者に帰属します。